

言葉で絵を描く



鈴野しずね

プロローグ

言葉は 何のためにあるのだろう

私の中から生まれる言葉は 何になりたいのだろう

言葉を研いで ナイフにするのではなく

言葉を磨いて 花束にしよう

きれいな花束を作り続けていたい

鳥

胸の痛みに 涙が止まらない時は

泥の中でもがいている鳥に 涙を注ごう

そして洗ってあげよう

涙が足りないのなら もっと泣いて

泥を全部洗い落としたり

その鳥を 空へと解き放とう

鳥よ

上昇気流に乗って 高く舞え

砂

砂を噛むような 味気無い思いでいっぱいのは

ぎゅっと握った指の間から砂がこぼれ落ちるような 虚しさを感じる時は

その砂を使って 感性を磨こう

砂漠にある砂全部を使って 磨き続けよう

そして 星の光の消える音を聴け

朝が始まる瞬間に目を凝らせ

聖火

心の中で 怒りや悲しみの炎が燃え盛っているのなら

その火をトーチに移して 立ち上がれ

夜の闇に足を踏み入れ 歩き出せ

海まで行ったら 砂に寝そべり 夜明けを待とう

やがて昇る朝陽の光で 火をおこそう

今度は その火をトーチに移し

月桂樹の香りを羅針盤にして

新しい旅を始めよう

言葉で絵を描く

<http://p.booklog.jp/book/18978>

著者：鈴野しずね

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shizushizu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/18978>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/18978>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.